

# 完了報告書

記入年月日 2026年 2月 13日  
採択団体名 認定 NPO 法人日本都市計画家協会

## ■事業概要

基本情報	
事業名	「逃げ地図」づくりを通じた防災教育観光まちづくり担い手養成促進事業
事業内容	事業内容①：防災教育観光まちづくり担い手養成ワークショップ 事業内容②：全国まちづくり会議 2025 埼玉（芝浦工業大学）研修 事業内容③：教育観光まちづくり担い手養成先進地区（宮崎県都農町）研修 事業内容④：防災逃げ地図土・地域交流集会（京都経済センター）における発表
事業背景	<p>三重県尾鷲市三木里地区は、南海トラフ巨大地震発生時に最大 14 メートルの津波が 10～15 分以内に到達すると想定されており、迅速な避難行動が求められる地域である。一方、集落人口約 400 名のうち 65%以上が高齢者であり、自力での避難が困難な避難行動要支援者も多いことから、そうした弱者に留意した津波から避難の対策、次代を担う若い世代の参加を得た防災体制の構築、並びに事前復興まちづくりの推進が喫緊の課題となっている。</p> <p>全国的に従来の地縁型コミュニティが脆弱化しており、特に過疎地は顕著である。防災に特化した取り組みには限界があり、あらゆる地域資源と都市部の「関係人口」をフル活用した「観光」に軸を置いた取り組みの成功モデルを生み出す必要がある。過疎地の再生の担い手として期待されているのは、地域おこし協力隊やゲストハウスを運営する移住ローカリスト。すなわち、地域資源を活用して生計を立てる地域コーディネーターであるが、必ずしも防災に長けているとは言えない。居住人口の少子高齢化が急速に進む過疎地においてコミュニティ防災を進めていくには、それも生業としていく持続可能な仕組みづくりが重要であり、そのエンジンとしての「防災観光まちづくり会社」の設立とそのコンテンツとしての「防災教育観光まちづくりワークショップ」の社会実験を重ねていく必要がある。</p>
コミュニティ 設立の経緯	<p>三木里地区は高齢化率が高く、自主的な避難が困難な要支援者が多い地域であることから、はなから避難を諦めている高齢者も少なくなかった。一方で、南海トラフ巨大地震に対する危機意識や防災への関心が高い住民も多くいたことから「逃げ地図」づくりワークショップや防災・まちづくりに関する講演会等の住民参加型の取組を通じて、防災に対する意識啓発と地域内の機運醸成を図り、コミュニティ形成を推進してきた。</p> <p>そこで、本事業は、2022 年度以来三木里地区において構築してきた連携・協力体制を基盤として、三木浦地区など周辺集落の地区会や周辺の教育機関（小中学校）との連携を図り、高齢化と過疎化が同時に進む地域におけるコミュニティ防災力の向上を目指す。さらに、三木里地区においては、次代のコミュニティ防災の担い手を養成しつつ、持続可能な体制を構築していくため、昨年度から今年度にかけて着任した地域おこし協力隊や集落支援員、大学関係者、専門家等が連携し、「防災観光まちづくり会社」の設立を視野に入れて「三木里防災観光まちづくり実行委員会」を設立して、廃校や空き家の活用、大学生による防災合宿等を実践してきた。尾鷲市をはじめとした周辺地域でも、住民や若手メンバーを主体としたコミュニティ防災教育の継続的な推進が期待されている。</p>
本事業に関する過去の 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・本事業の核になっている「逃げ地図」づくりワークショップは、東日本大震災の経験と教訓を活かすために日建設計ボランティア部が開発した手法で、申請団体代表の山本俊哉らが 2012 年以降研究対象として普及・啓発してきた。2023 年 4 月に申請団体に逃げ地図研究会を設置し、2025 年 8 月 21 日までに全国 37 都道府県 100 市区町村以上で開催されている。</li><li>・三木里地区においては、2022 年度の当協会主催のまちづくり出前講座（合計 3 回、三木里地区で開催）を契機として、三木里地区会を主体とした防災観光まちづくりを推進してきた。これらの取組にあたっては、尾鷲市各課（政策調整課、防災危機管理課、商工観光課、建設課、福祉保健課、生涯学習課）との行政連携検討会議を定期的に行い、継続的な協議を重ねてきた。</li><li>・これまでに三木里地区で実施した「逃げ地図」ワークショップは、合計 4 回以上に及び、2023 年の初回は尾鷲市長も参加し、2 回目は尾鷲市の主催で開催して多くの避難行動要支援者を抱える福祉介護施設の関係者も多く参加した、また、第 1 回に作成した「逃げ地図」を活用したことも向</li></ul>

	<p>けのアートワークショップ「キツネを探せ！」はマスコミでも大きく取り上げられて反響を呼び、こうしたコミュニティ防災教育の実践を通して関係住民や行政職員の防災教育および次代の担い手育成にも寄与してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他方、こうしたコミュニティ防災教育の対象として都市部の学生に着目し、2023年度から毎年、「防災合宿」を開催してきた。こうした中で「老朽ブロック塀解体ワークショップ」や地元住民と一緒に取り組む「避難所訓練」などの体験に高いニーズがあることがわかり、その社会実装のプログラム化を検討しながら、「防災観光まちづくり会社」設立の構想を描き、尾鷲市長の後押しのもと関係部課職員との協議と実践を重ねてきた。</li> </ul>
事業体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾鷲市 政策調整課等の各課：本事業実施における協議・検討</li> <li>・三木里地区会：本事業実施における協議・検討、諸活動の実施主体、事業内容①～④への参加</li> <li>・三木里防災観光まちづくり実行委員会（6名）：事業内容①の企画・運営 事業内容②への参加 事業内容③への参加 事業内容④への参加・発表</li> <li>・合同会社 KISUI SEKKEI（2名）：事業内容①への参加、企画・進行支援など 事業内容③への参加、企画調整など</li> <li>・明治大学 山本研究室（5名）：事業内容①における「逃げ地図」づくりの企画運営支援など</li> <li>・愛知工業大学 益尾研究室（7名）：事業内容①への参加、運営支援など</li> </ul>
全体スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月下旬～10月初旬 三木里防災観光まちづくり実行委員会の開催①</li> <li>・9月下旬～10月中旬 尾鷲市政政策調整課等の関係各課と打合せを行い事業実施の具体内容を確定</li> <li>・10月10日～13日 防災教育観光まちづくり担い手養成ワークショップ①の実施</li> <li>・10月18日～19日 第20回全国まちづくり会議2025 埼玉（芝浦工業大学）での研修</li> <li>・10月下旬 三木里防災観光まちづくり実行委員会の開催②</li> <li>・11月1日～3日 防災教育観光まちづくり担い手養成ワークショップ②の実施</li> <li>・11月中旬 三木里防災観光まちづくり実行委員会の開催③</li> <li>・11月下旬 三木里地区会まちづくり作戦会議の開催①</li> <li>・12月6日～8日 教育観光まちづくり担い手養成先進地区（宮崎県都農町）での研修</li> <li>・12月中旬 三木里防災観光まちづくり実行委員会の開催⑤</li> <li>・1月17日 防災逃げ地図土地域交流集会（京都大学）での発表・交流</li> <li>・1月下旬 三木里防災観光まちづくり実行委員会の開催⑤ 事業実施の振り返りを行い、成果報告書を作成 三木里地区会まちづくり作戦会議の開催②</li> </ul>
事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「逃げ地図」づくりと連動した実践的な避難経路の安全性向上と避難時間の短縮 沿岸部・中山間部などの地形的制約、南海トラフ巨大地震想定地域、過疎・高齢化の進行する地域等において、住民と外部人材が共同して避難経路を可視化・検証することで避難経路の安全性向上および避難時間短縮を実現し、地域防災力を向上する手法を確立する。</li> <li>② 外部人材の参加による防災訓練の活性化・コミュニティ防災力の向上 都市部等の若い外部人材を受け入れる仕組みづくりにより、地域防災や地域行事等にも新たな視点と担い手を呼び込み、人口減少地域におけるコミュニティ防災力向上のモデルとして展開する。</li> <li>③ 当該ワークショップを通じた都市部における地域課題解決型の人材育成効果 ワークショップを通して、災害リスクを抱える地域と外部人材を結びつけ、地域課題に向き合いながら企画・運営力を育成することで、全国各地の防災・まちづくり分野で活躍可能な人材育成効果を創出する。</li> <li>④ 逃げ地図づくりを起点としたまちづくりの全国ネットワーク形成の促進 南海トラフ巨大地震想定地域や同様の課題を抱える地域間で、実践事例や人材を共有する全国的なネットワークを形成し、横断的な連携・相互支援体制の構築を図る。</li> </ol>
事業成果全般 (教育提供者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「逃げ地図」ワークショップを通して、地域資源を活かした防災教育観光プログラムの運営ノウハウをモデル化の実現</li> <li>・移住ローカリストや地域住民の防災教育に関する能力・知識を体系化し、地域防災力の持続性向上に結びつく担い手ネットワークの構築</li> <li>・南海トラフ巨大地震の類似地域や過疎地域における、「逃げ地図」を起点とした持続可能な防災教育観光まちづくりの仕組みの横展開</li> </ul>

事業目標全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部からのツアー参加者や、地元若手メンバーが、実践的な防災教育や観光まちづくりの手法を学び、地域課題解決型の経験を得る。</li> <li>・移住者・地域コーディネーターとして、地域特性に応じた防災教育、観光まちづくり事業を企画・運営できる能力を習得する。</li> <li>・全国の他地域の事例やネットワークを学び、自地域での実装や改善に活かす視点を獲得する。</li> </ul>
事業成果全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「逃げ地図」づくりやブロック塀解体ワークショップなどを通して、実践的な地域課題対応能力を習得し、事業期間中に三木里地区在住2名の2級防災逃げ地図士に認定・登録された。</li> <li>・自身の防災や地域活性化に関する意識・行動の幅を広げ、持続的な地域活動、防災教育の担い手として成長する機会になった。</li> <li>・本事業を通して、三木里防災観光まちづくり実行委員会のメンバーを中心に、「一般社団法人三木里こうし隊」が設立され、防災意識の向上及び災害対応能力の強化を図るための教育・啓発活動などの担い手として事業展開することになった。</li> </ul>
展開できる 知見やノウハウ	<p>本事業を通して、地域防災教育や観光まちづくりを推進するための具体的な手法や運営ノウハウを蓄積することができる。具体的には「逃げ地図」づくりを起点とした防災訓練や要配慮者の避難計画作成を通じた実践型教育の方法、地域住民と都市部の学生を交えた協働の仕組みづくり、地域コーディネーターや若手移住者を担い手として育成する手法などである。</p> <p>また、地域特性に応じた事業モデルの設計や、参加者間のコミュニケーションを通じた柔軟なプログラム改善の重要性も明らかにすることができる。これらの知見は、三木里地区だけでなく他地域での防災教育観光まちづくりの展開や、持続的な地域人材の育成に活用可能である。</p>
コミュニティ防災教育の重要な観点	<p>過疎地の再生においては、地域おこし協力隊やゲストハウスを運営する移住ローカリスト等の、地域資源を活用して生計を立てる地域コーディネーターが必要不可欠である。そして、過疎地におけるコミュニティ防災教育には、そのような若手の地域コーディネーターを防災に長けた人材へ養成することが重要である。</p>
残課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災、観光、まちづくりの総合的なプログラム運営について、事業の持続性を担保するための運営フローの標準化やマニュアル化を推進する必要がある。</li> <li>・本事業内においては、研修や交流会等への参画が地域おこし協力隊を含む外部の人材に偏る傾向があり、地元住民の主体的な関与に課題を残している。</li> <li>・既存の地域組織（地区会、消防団等）との連携をさらに深め、地域内の防災教育、防災活動の担い手育成と、多世代が参画できる仕組みづくりが必要である。</li> <li>・全国各地の先進事例や、交流会等で得た知見を、三木里地区内外で共有・還元する具体的な手法が未確立である。</li> </ul>


## ■事業内容

事業内容① 防災教育観光まちづくり担い手養成ワークショップ	
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三木里防災観光まちづくり実行委員会を中心とした「防災教育観光まちづくり担い手養成ワークショップ」の実施を通して、「逃げ地図」を起点とした防災教育プログラムの企画・運営を担う体制を構築する。</li> <li>・廃校や空き家等の地域資源を活用し、防災訓練やワークショップ等の防災と、地域の暮らし体験等の観光要素を組み合わせた、防災教育観光まちづくりモデルを実証する。</li> <li>・移住者、地域おこし協力隊などの若手メンバーを、防災教育の担い手（地域コーディネーター、防災逃げ地図士等）として養成する。</li> <li>・「逃げ地図」づくりや要配慮者の個別避難計画作成、炊き出しやテント設営等の実践型の防災訓練を通して、地域のコミュニティ、防災力を高める。</li> <li>・小中学生向けの「逃げ地図」づくりワークショップの実践を通して、継続的な地域の防災教育の体制を整備する。</li> <li>・尾鷲市および関係行政機関と連携し、市の防災施策や地域振興施策との連動を図りながら、持続性のある防災教育観光まちづくりのモデルを実証する。</li> </ul>

<p>事業内容①目標 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊や移住者等の若手メンバーが、ワークショップの企画・運営・ファシリテーション等の経験を通し、地域コーディネーターとしての知見を得る。</li> <li>・ワークショップやツアーを通して、防災知識や地域資源の活用、地域の暮らしや観光など、総合的な学びを得る。</li> <li>・「逃げ地図」を活用して、避難行動の理解を深めるとともに、津波災害への対策、地域特性の把握能力等を習得する。</li> <li>・参加者間での交流を通して、地域防災やまちづくりに関わる意識向上と関係人口の増加を促す。</li> </ul>	
<p>事業内容① 三木里防災観光まちづくり実行委員会の開催 (実施日：①9/29、②10/27、③11/28④12/18、⑤1/15)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 「防災教育観光まちづくり担い手養成ワークショップ」の実施に向け、三木里防災観光まちづくり実行委員会による定例会議(実行委員会)を計5回開催した。会議では、担い手養成ワークショップの全体方針やプログラムづくり、運営方法等について協議・検討を重ねた。また、2回の担い手養成ワークショップの実施後には振り返り・反省会を行い、次年度以降に向けた改善事項などを協議した。</p> <p>■成果(提供者・参加者) 担い手養成ワークショップの実施に向けた実行委員会の開催を通して、事業方針や役割分担、運営体制などについて関係者間で共有・合意形成をする場を確立できた。また、企画段階から実施、振り返りまでを通して、防災教育観光まちづくりプログラムの全体構成や運営手順などについて具体化し、防災教育観光まちづくりを主体的に推進する担い手としての経験を蓄積することができた。</p>	
<p>事業内容① 防災教育観光まちづくり担い手養成ワークショップの開催 (実施日：①10/10~12、②11/1~3)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 地域おこし協力隊や移住者等の若手メンバーがワークショップの実施主体となることで、防災観光まちづくりの担い手となることを目的とした。具体的には旧三木里小学校を拠点に、「逃げ地図」づくりを起点とした防災教育観光まちづくり担い手養成ワークショップを2回実施した。都市部からの学生等をモニターとして受け入れ、地域(地区会や消防団、地元建設業者等)と協働しながら防災訓練や老朽ブロック塀の解体WS、炊き出し訓練等の実践的な防災活動を通して、地区内外における防災の担い手の育成を図った。</p> <p>■成果(提供者・参加者) 担い手養成ワークショップの参加者からは、「逃げ地図」づくりや防災訓練の継続、充実化への期待や、地域住民との交流から得られた学び、コミュニティのレジリエンスを高める場づくりの必要性などの意見が寄せられ、「逃げ地図」づくりを核とした防災教育の成果が得られた。</p> <p>地区内の福祉介護施設職員やケアマネージャーら8名が参加した「逃げ地図」を活用した避難行動要支援者の避難に関するワークシート記入ワークショップは、個別避難計画作成の機運を高めるだけでなく、避難手段や避難経路の選択、避難支援者の確保を進める上で有意義な成果が得られた。</p> <p>車椅子を使った「逃げ地図」づくりワークショップでは、実地検証を通して地区内の車椅子通行可否のマップが作成され、車椅子を活用した避難の意識が高まるとともに課題が明らかになった。</p> <p>地区会、消防団、地元建設業者等の地域組織と協</p>	

	働いて実践的な防災活動を行ったことで、平時には接点の少ない主体同士の連携が生まれ、今後の地域防災活動における協力関係構築のきっかけとなった。	
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点 三木里地区において防災観光まちづくりワークショップは初めての実施であったため、役割分担や運営フローなどについて関係者間での共通認識が形成されていない部分が見られた。また、防災教育、観光、まちづくりなど複数の要素を組み合わせたプログラムであったことから、参加者に向けては各プログラムの関連性や目的、全体の構成を伝えづらい点があった。</p> <p>■乗り越えた方法 1回目の担い手養成ワークショップにおいて、プログラム全体の狙いや構成が参加者に十分に伝わっていない点や、運営面においては役割分担の不明確さなどが明らかとなった。これを受けて、2回目の担い手養成ワークショップでは、プログラムの見直しや関係者への事前説明、情報共有体制の改善を行うことで、運営体制の改善を行なった。</p>	
事業内容①を実施する上で工夫した点	<p>本事業では、「防災教育観光まちづくり担い手養成ワークショップ」の実施にあたり、実行委員会を定期的に開催し、企画・実施・振り返りを一体的に行う運営体制を構築した。事業の初年度かつモニターとしての実施であったことから、実行委員会を単なる調整の場に留めず、担い手養成の一環として位置付け、移住者・地域おこし協力隊等の若手メンバーが、主体的に企画調整等の担うよう工夫した。</p> <p>担い手養成ワークショップは、「逃げ地図」づくりをプログラムの主軸とし、地域住民と協働した防災訓練や、ブロック塀解体ワークショップなどと結びつけ、理論と実践までを体験できる構成とした。</p>	
事業内容① 残課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手養成ワークショップを3回実施予定であったが、プログラムづくりや関係者との調整に想定以上の時間と労力を要したことで、事業期間内では2回の実施にとどまった。</li> <li>・実行委員メンバーが企画・運営・振り返りを同時並行で行う体制がまだ不安定である。</li> <li>・プログラム内容や運営手順の標準化、マニュアル化が未整備な状況にある。</li> <li>・参加者の学びの定着やフォローアップの仕組みが十分とはいえない状況にある。</li> <li>・「逃げ地図」づくりワークショップは従来のように近隣の小中学校との連携を図って小中学生の参加を呼びかけたが、事業期間中の日程調整が難しく、参加が得られなかった。</li> <li>・ブロック塀解体ワークショップにより車椅子を使った避難経路の改善が進んだが、まだ多くの車椅子通行不可の通路が多く存在しており、その改善が引き続き求められている。</li> </ul>	
事業内容② 全国まちづくり会議 2025 埼玉（芝浦工業大学）研修		
事業内容②目標 （提供者側）	<p>■防災教育の提供者（採択団体等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国まちづくり会議のセッション「集まれ！防災逃げ地図士～全国各地の実践事例と今後の課題を探る」における各地の「逃げ地図」づくりを起点にした防災まちづくりの先進事例やその担い手の防災逃げ地図士との意見交換を通して、コミュニティ防災教育や避難行動要支援者の個別避難計画の作成など防災まちづくりの具体的手法や運営ノウハウを学び、三木里地区におけるワークショップやまちづくりのプログラム、それらの担い手の育成に活かす。</li> <li>・その他のセッションにおける全国各地のまちづくりの先進事例やその担い手との交流を通して、三木里地区における防災教育観光のモデルとしての可能性や、地域課題解決型の教育提供者としての役割を再認識する。</li> </ul>	
事業内容②目標 （参加者側）	<p>■防災教育の参加者（地域への波及効果、学生の理解度等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域の先進事例を学ぶことで、三木里地区のコミュニティ防災教育・観光まちづくりの改善点や新しいアイデアを取得する。</li> <li>・学んだ知見を地域内で共有・実践し、地域住民や移住者の防災・まちづくりの意識向上に繋げる。</li> <li>・全国各地の優れた事例と比較することで、地域の独自性を活かした持続可能な防災教育観光まちづくりモデルの確立を目指す。</li> </ul>	

	<p>・こうした研修を通して、三木里地区の防災まちづくりの担い手の養成やコミュニティ防災力の向上に寄与する。</p>	
<p>事業内容② 全国まちづくり会議 2025 埼玉での研修 (実施日：10/18～19)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 全国各地から延べ約 600 名のまちづくり関係者が集まった「全国まちづくり会議」の全 25 のセッションの中で「集まれ！防災逃げ地図士」をはじめとする関連セッションに、三木里地区から代表者 3 名（右写真）が参加した。 「集まれ！防災逃げ地図士」では、和歌山県有田市や静岡県下田市などでの実践事例が報告され、ケアマネージャーとの連携や逃げ地図ワークショップの可能性について意見交換が行われた。 三木里地区からの参加者は、1 日目はオープニングセッション「日常にきらめく魅力」と「JSURP AWARD 2025」において各地の優れたまちづくり事例を学び、「懇親会」を通して交流を深めた。2 日目は「都市計画と観光まちづくり」や「官民学民の連携で進める地域防災減災コミュニケーションとまちづくり」などの関連セッションに参加し、「集まれ！防災逃げ地図士」では 3 名全員が発言した。</p> <p>■成果(参加者) 三木里地区からの参加者は、他地域の先進的な取り組みの事例に触れたことで、三木里地区での展開可能性を具体的に考えることができた。他地域での実践者と交流する機会を得て、防災逃げ地図士の認定を得るなど今後の事業展開に向けた具体的なアイデアとモチベーションを獲得した。</p> <p>■成果(提供者) 「集まれ！防災逃げ地図士」のセッションに三木里地区からの参加者の発言を得たことで、三木里地区での先進的な取り組みを共有することができ、全国的なネットワーク形成の好機となった。</p>	 <p>22. 集まれ！防災逃げ地図士 —全国各地の実践事例と今後の可能性を語る—</p> <p>10/19 (日) 15:30～17:30 / 2206教室</p> <p>&lt;実施主体&gt; JSURP逃げ地図研究会</p> <p>&lt;概要&gt; 福井・有田・下田・川崎・新宿・逗子の事例から、社協やケアマネとの連携、デジタルや自転車活用を考える。</p> <p>&lt;プログラム詳細&gt; 防災逃げ地図士とは：山本俊哉 (JSURP) 各地の実践事例リレートーク：乾陽子 (ふくい逃げ地図研究会)、矢口哲也 (早稲田大学)、金塚淑 (日本ミクニヤ)、長谷川智大 (明治大学)、佐藤慶一 (専修大学)、福谷俊介 (JSURP自転車まちづくり研究会) 逃げ地図ワークショップの可能性：進士弘幸 (朝日小学校)、石田真実 (かながわ311ネットワーク)、森脇 ①、日高有佳子 (損保ジャパン) ほか モデレーター：井上雅子 (セコムIS研究所)</p>
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題 三木里地区から週末 2 日間の全日程（特に 2 日目の午後 5 時までの「集まれ！防災逃げ地図士」）に参加するには帰郷が翌日の月曜日になるため、三木里地区からの参加者は 3 名にとどまった。また、会場周辺に予約可能なホテルがなかったため、茨城県古河市内に宿泊せざるを得なかった。</p> <p>■乗り越えた方法 3 名のうち 2 名は古河市内のホテルに連泊し、うち 1 名は帰省先の名古屋にとどまった。</p>	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>参加が望まれるセッションが重なる時間帯があるため、参加者 3 名全員が共通して参加するセッションは、「集まれ！防災逃げ地図士」のほか、オープニングセッション「日常にきらめく魅力」と「JSURP AWARD 2025」として、他の時間帯のセッションは手分けして参加することにした。 <a href="https://sites.google.com/view/zenmachi2025">https://sites.google.com/view/zenmachi2025</a></p>	
<p>事業内容② 残課題等</p>	<p>・三木里地区からの全国まちづくり会議への昨年までの参加者はこれまで 1 名にとどまっていたため、残りの 2 名は初参加になったが、「逃げ地図」に関する全国的なネットワークに主体的に参加してもらうため、その 2 名には早急に「2 級防災逃げ地図士」の取得申請をし、来年 1 月 17 日に京都市で開催される「防災逃げ地図士地域交流集会 in 京都」において三木里地区における「防災観光教育まちづくり」の取り組みについて発表してもらうことにした。 ・「防災逃げ地図士地域交流集会 in 京都」には三木里地区から発表者以外もできる限り多くの当該実行委員などに参加してもらうことにした。</p>	

事業内容③ 教育観光まちづくり担い手養成先進地区（宮崎県都農町）研修	
事業内容③目標 （提供者側）	<p>■防災教育の提供者（採択団体等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本都市計画家協会が2年に1回、選考・表彰している「日本まちづくり大賞」を受賞した株式会社イツノマが宮崎県都農町を拠点とした先進的な教育観光まちづくりの運営手法やマネジメントを学び、三木里地区における防災教育観光まちづくり事業の展開に活用する。</li> </ul> <p><a href="https://jsurp.jp/nihon_toshikyokai_award_04/">https://jsurp.jp/nihon_toshikyokai_award_04/</a>  <a href="https://prtimes.jp/story/detail/wxGR2DsKqgB">https://prtimes.jp/story/detail/wxGR2DsKqgB</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的には、ゲストハウスや廃校を拠点としたプログラム運営の持続可能な仕組みづくりに関する知見を得て、地域住民主体の担い手養成や都市部参加者の受け入れ体制について具体的な改善策を検討してもらう。</li> </ul>
事業内容③目標 （参加者側）	<p>■防災教育の参加者（地域への波及効果、学生の理解度等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都農町の事例を通じて、三木里での教育観光まちづくりの運営方法や防災教育プログラムの改善点を学ぶ。</li> <li>・地域住民や移住者が主体的に担い手となるための知識・ノウハウを習得する。</li> <li>・ゲストハウス運営や廃校活用、都市部参加者を受け入れる際の運営ノウハウや、地域交流の実践方法を学ぶ。</li> </ul>
事業内容③ 先進地区（宮崎県都農町）研修 （実施日：12/6～8）	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>教育観光まちづくりの先進的地区である宮崎県都農町において、(株)イツノマが運営するゲストハウスや、小中高生をターゲットとしたスタディツアーのプログラムの実践とマネジメント手法を学んだ。</p> <p>■成果(提供者・参加者)</p> <p>都農町での研修を通して、参加した実行委員は、施設運営の持続可能性や、教育×地域づくりの手法、地域特性に応じた事業展開の視点、若者（小中高生）への伝え方、発想の柔軟性など、多くの学びを得た。また、先進事例と比較することで三木里地区における防災観光まちづくりの在り方や今後の展開について再考する機会となった。</p> 
事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修参加者のうち、地元若手メンバーは2名のみの参加であった。少人数での話し合いとなった、より深い認識共有が得られた一方で、その得られた知見を地域にフィードバックする工夫が必要である。</li> </ul>
事業内容③を実施する上で工夫した点	<p>視察研修では、(株)イツノマの運営手法や教育観光まちづくりの理念を現地で視察するだけでなく、三木里地区における取り組みも紹介しながら双方の活動について意見交換を行なったことが、実践的な学びの場となった。また、三木里地区の地域特性と照らし合わせて、どの部分を導入できるか、工夫する必要があるか等を議論する場を設け、今後の事業展開への応用につなげた。</p>
事業内容③ 残課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三木里地区で防災観光まちづくり事業を推進するにはまだ事業計画と収支計画が不十分な状況にある。</li> <li>・都農町のモデルから三木里地区に応用できるプログラムや考え方について議論し、具体化を行うことが必要である。</li> <li>・この研修で得た知見を地域全体に共有し、還元することも課題として残った。</li> </ul>
事業内容④ 防災逃げ地図士地域交流集会（京都大学）における発表	

<p>事業内容④目標 (提供者側)</p>	<p>■防災教育の提供者（採択団体等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「逃げ地図」を起点とする、企業活動、学校教育、福祉、デジタル技術、過疎地域の事前復興など、全国各地で多様な分野で取り組む実践者との交流、意見交換を通じて、防災まちづくりの具体的な手法やノウハウ等を学び、三木里地区における防災まちづくりや、それらの担い手としての防災逃げ地図士等の育成に活かす。</li> <li>・各プログラムや交流会を通して、三木里地区における防災教育観光のモデルとしての可能性や、地域課題解決型の教育提供者としての役割を再認識する。</li> </ul>	
<p>事業内容④目標 (参加者側)</p>	<p>■防災教育の参加者（地域への波及効果、学生の理解度等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域の先進事例及び交流会を通して、「逃げ地図」を活用した様々な防災教育の手法等について習得する。</li> <li>・三木里地区における防災教育の取組発表を通して、過疎地域における「逃げ地図」を活用した事前復興の重要性や手法を共有・展開する。</li> <li>・他地域の先進事例等から学んだ知見を地域内で共有し、地域住民や移住者の防災・まちづくりの意識向上に繋げる。</li> </ul>	
<p>事業内容④ 防災逃げ地図土地 域交流集会 (実施日：1/17)</p>	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>2026年1月17日、京都経済センターにて開催された防災逃げ地図士交流集会では、防災における実践的な協働ツールである「逃げ地図」について、企業活動や学校教育、福祉、デジタル技術等、多様な分野における「逃げ地図」の活用に関する発表が行われた。本集会において、三木里地区からは実行委員会を代表して3名が参加し、二級防災逃げ地図士として登録・認定された2名が「『逃げ地図』と地域に惚れ込む」と題して、本事業の「逃げ地図」に関する活動報告を行なった。具体的には、過疎地域における「逃げ地図」を起点とした事前復興の必要性、地域への愛着や活動を通じた防災や事前復興の取り組みへの手応えなどを報告するとともに、「逃げ地図」に取り組んでいる参加者と交流した。</p> <p>■成果(提供者・参加者)</p> <p>本集会を通して、参加した実行委員メンバーからは次のような報告を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地の実践者による発表や交流を通じて、「逃げ地図」を活用した地域防災連携の新たな形について学ぶことができたほか、「逃げ地図」が単なる避難経路の可視化ツールではなく、地域コミュニティの活性化や住民の主体性の向上に寄与する手段であることを再認識した。</li> <li>・本年度実施した担い手養成ワークショップにおいて行った、ブロック塀解体による避難経路改善の取り組みについて高く評価され、今後も継続的な防災の担い手養成や、事前復興の実装に繋げていくことが期待される。</li> <li>・本集会に参加したことで、「逃げ地図」の活用や、過疎地域における防災・事前復興の重要性を改めて感じ、参加したことで新たな視点と切り口が見えた。</li> </ul>	 
<p>事業内容④を実施 する中で発生した 課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三木里地区の「逃げ地図」づくりワークショップにファシリテーターとして関わった者のうち、本事業期間中に1級と2級の防災逃げ地図士が合計6名認定・登録されたが、三木里地区在住者は2級の2名にとどまった。三木里地区だけだと認定逃げ地図ワークショップに限りがあるので、今後は尾鷲市での横展開を進め、三木里地区在住の1級と2級の防災逃げ地図士を増やしたい。</li> <li>・本集会への三木里地区関係の参加者は、日程調整がつかず、本申請団体の代表を含めて4名にとどまったため、今後はより多くの若手メンバーに参加を促し、担い手養成に繋げたい。</li> </ul>	

<p>事業内容④を実施 する上で工夫した 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本集会での発表は2級防災逃げ地図士の認定を得たばかりの若手メンバー2名が担当し、若者世代が担い手となり得る可能性や、地域活動への主体的な関与の姿勢について、参加者に向けて共有した</li> <li>・ブロック塀解体等の実践的なワークショップに関する活動報告を通して、地域防災・地域活動の具体的な取組内容やプロセスを示した。</li> </ul>
<p>事業内容④ 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三木里地区への来訪者を増やすためにも、一連の「逃げ地図」を活用した活動の成果や効果を把握してそれらを的確に広報する検討が必要である。</li> <li>・本集会で得られた知見や事例について、三木里地区の住民と共有し、地域に還元することが必要である。</li> </ul>

日本都市計画家協会 (逃げ地図研究会)

三木里まちづくり作戦会議(三木里地区会主催のプラットフォーム)

三木里自主防災会

三木里地区会

三木里観光協会

連携

連携

参加

参加

参加

伴走支援

三木里防災観光まちづくり実行委員会 (協議会)

参加

実行

KISUI SEKKEI

愛知工業大学  
益尾研究室

明治大学  
山本研究室

支援

支援

学生参加

支援

学生参加

防災教育観光まちづくり担い手養成  
ワークショップ  
三木里防災観光モニターツアー  
+ 逃げ地図活用・防災訓練

参加

参加

参加

地域おこし協力隊  
集落支援員

福祉介護事業者

女性消防団

地元ゲストハウス  
飲食店オーナー

地元工務店

協力

協力

参加 後方支援

行政連携検討会議

連携

横展開

横展開

行政 (尾鷲市)

政策調整課、防災危機管理課、商工観光課、  
建設課、福祉保健課、生涯学習課

賀田小学校

輪内中学校

賀田地区

三木浦地区

その他大学

早大・立教・愛媛大、阿南高専など

学生参加

主催：明治大学山本研究室

三木里地区

# 逃げ地図ワークショップ

## —福祉の視点から考える津波避難—

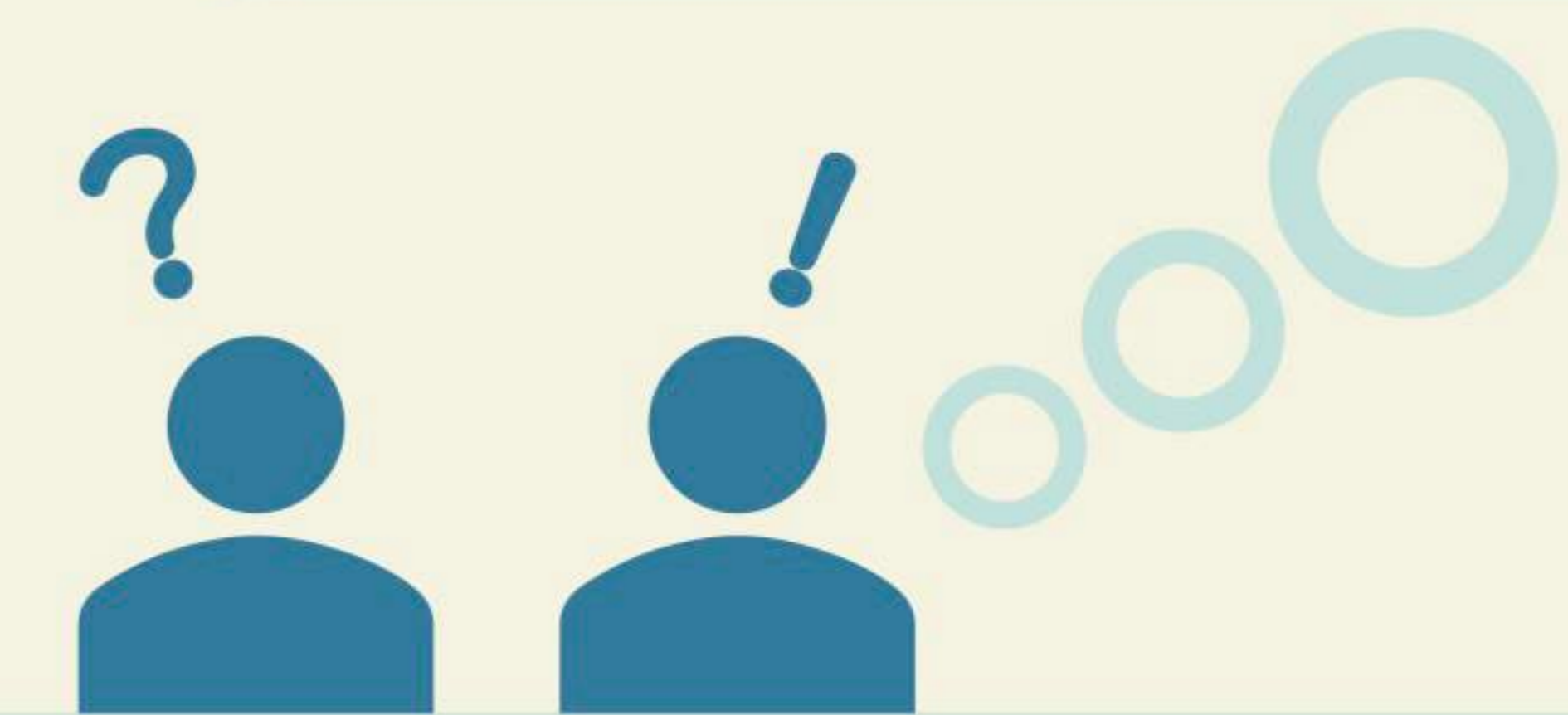
これまでも多くの福祉事業者の方に参加いただいた逃げ地図づくり。  
今回は「福祉や要配慮者の視点」を中心に考えます。

日時：2025年10月10日（金）15:30～

会場：旧三木里小学校講堂

- ・避難行動要支援者への支援の工夫
- ・車椅子使用者の避難
- ・徒歩避難と車両避難をどう整合させるか
- ・個別避難計画作成へのつながり

などについて逃げ地図を使いながら  
意見交換しませんか？



対象者

ケアマネージャー  
福祉・介護施設職員  
民生委員・行政職員  
地域の避難に関心のある方



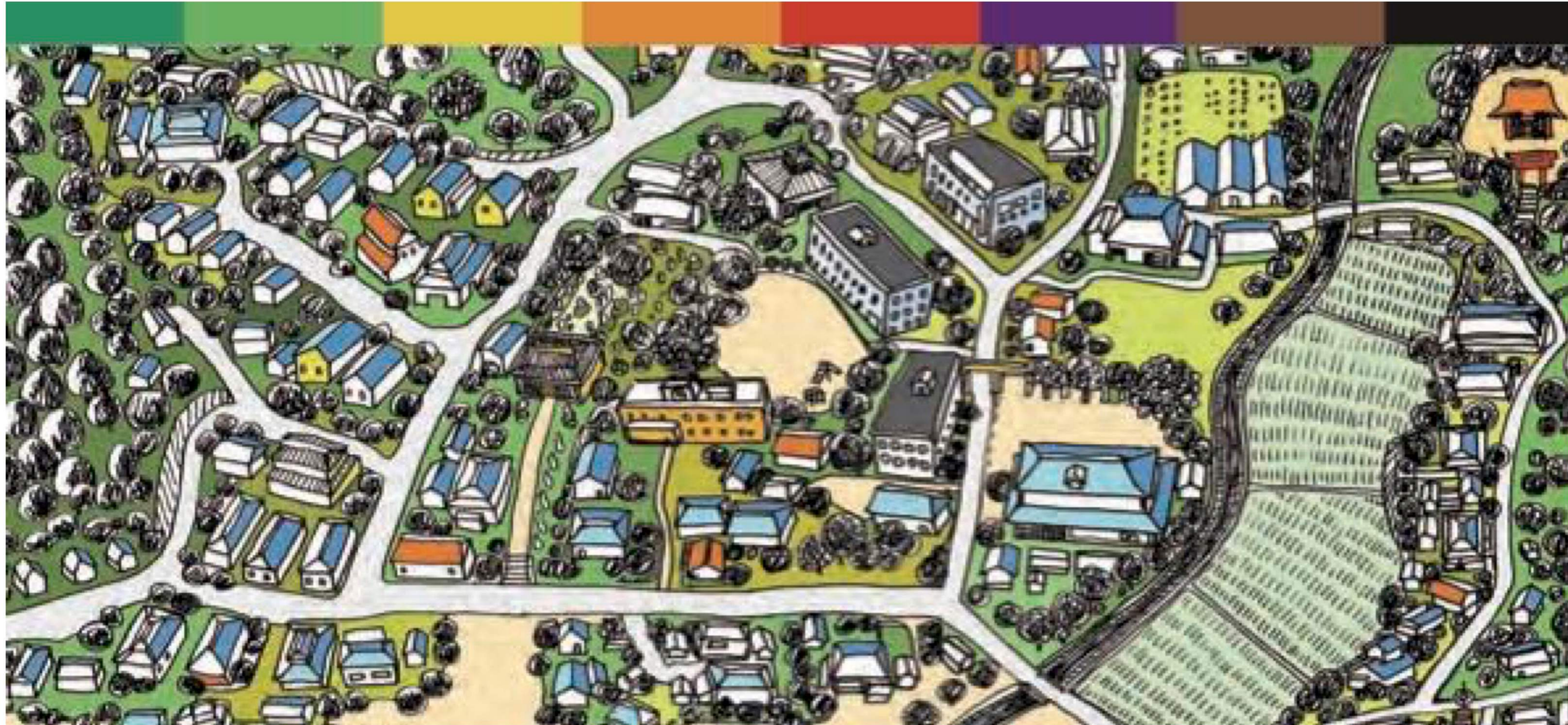
共催：三木里地区会・三木里防災観光まちづくり実行委員会

・三木里地域おこし協力隊・愛知工業大学益尾研究室

お問い合わせ：明治大学山本研究室 砂原芽生

メール：ce243048@meiji.ac.jp





全国まちづくり会議2025埼玉

# 集まれ！防災逃げ地図士

全国各地の実践事例と今後の可能性を語る

日時：2025年10月19日（日）午後3時半～5時半

会場：芝浦工業大学大宮キャンパス2号館 2206教室

福井・有田・下田・川崎・新宿・逗子の事例から、社協やケアマネとの連携、デジタルや自転車活用を考える。

- 1 防災逃げ地図士とは：山本俊哉（JSURP）
  - 2 各地の実践事例リレートーク：乾陽子（ふくい逃げ地図研究会）、矢口哲也（早稲田大学）、金玟淑（日本ミクニヤ）、長谷川智大（明治大学）、佐藤慶一（専修大学）、福谷俊介（JSURP自転車まちづくり研究会）
  - 3 逃げ地図ワークショップの可能性：進士弘幸（朝日小学校）、石田真実（かながわ311ネットワーク）、森脇環帆、日高有佳子（損保ジャパン）ほか
- モデレーター：井上雅子（セコムIS研究所）

主催：日本都市計画家協会（JSURP）逃げ地図研究会  
<https://nigechizu.jsurp.jp/>



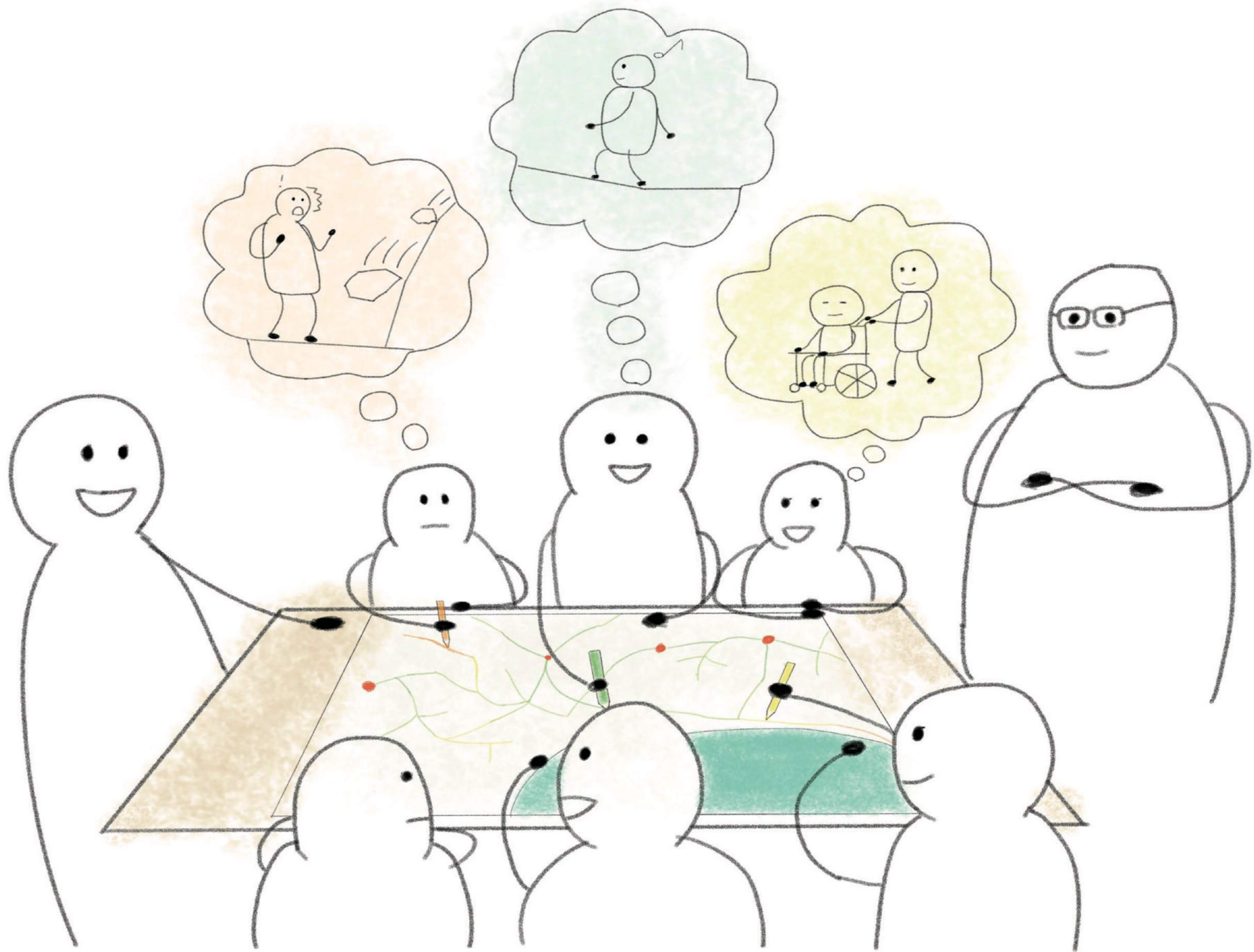
# 逃げ地図ワークショップ

2025年11月2日(日) 14:30~16:30

旧三木里小学校 講堂

小中学生のみなさん!

大学生たちと一緒に歩いて、逃げ地図を作って  
津波からの避難と防災について考えてみませんか?



## ●逃げ地図とは?

災害時に避難地点までにかかると時間を色ごとに見やすくした手描きの地図です!  
作る時に道のどこが危ないか?どこが行きづらいか?などコミュニケーションをしながら避難について考えていきます!

## ●講師

- ・長谷川智光(2級防災逃げ地図士)
  - ・山本俊哉(明治大学教授)
- ## ●ファシリテーター
- ・黒川陽介
  - ・山田光介(地域おこし協力隊)

## ●主催

三木里防災観光まちづくり委員会

## ●共催

三木里地区会

## ●問い合わせ

三木里防災観光まちづくり委員会  
山田光介 090-7318-0116



参加費無料・申し込み不要

南海トラフ巨大地震の津波想定地域である三木里地区は、過疎高齢化や地域経済の縮小など、多くの深刻な地域課題を抱えています。

地域では、災害対策という「非日常」と、持続的な地域運営という「日常」を両立させるため、「防災観光まちづくり」を推進し、その具体的な取り組みとして、「三木里防災観光ツアー」などを展開しています。

本講演では、三木里にゆかりのある立教大学観光学科教授、西川亮先生をお招きし、防災観光まちづくりのこれからのことについてご講演いただきます。地域課題の解決と防災を両立させる、実践的な取り組みを学ぶ貴重な機会です。ぜひご参加ください。

日時・場所

2025年11月03日 月

15:30 ~ 17:00

旧三木里小学校講堂

(三重県尾鷲市三木里町)

講師 西川 亮 —立教大学観光学科教授

観光を巡る昨今の状況及び多様化する観光のあり方を概観するとともに、防災観光まちづくりという新たな取り組みの可能性について皆さんと考えてみたいと思います。

対談 山本 俊哉 —明治大学教授  
日本都市計画家協会会長

# 「地域に学ぶ」という観光の在り方



主催 三木里地区会

防災逃げ地図士交流集会in京都  
～地図でつながる〈防災の輪〉～

# まちを彩る 防災逃げ地図士たちの 挑戦とこれから



災害リスクが高まる今、「逃げ地図」は、地域に潜む危険や安全な場所を確かめ、避難ルートを“見える化”することで、誰もが参加できる実践的な協働ツールとして注目を集めています。

本交流集会には、企業活動、学校教育、福祉の現場、デジタル技術、過疎地域の事前復興など、多様な分野で取り組む実践者が京都に集います。

領域を越えて知見とネットワークを結び合わせ、持続可能な地域防災を実現し、新たな価値を創出するヒントをともに探っていきます。



2026年1月17日(土)  
13:30-16:30

会場

京都経済センター 会議室6-C



参加費 無料

定員 100名 (先着順・要申込)

申込方法

右のQRコードから  
お申し込みください。  
1月13日(火) 〆切



★お問い合わせ：逃げ地図研究会  
nigechizu@jsurp.jp

# プログラム

## 第1部 トークセッション(13:30~16:30)

開会あいさつ

基調講演：期待される防災逃げ地図士

認定NPO法人日本都市計画家協会・逃げ地図研究会 代表

山本俊哉

### 1 リレートーク

損害保険ジャパン株式会社  
全体司会：澤樹祥子

- |   |   |                                |
|---|---|--------------------------------|
| 1 | 地域防災連携の新たな形 — 保険会社が取り組む「逃げ地図」体験会<br>京都市 水害（洪水）            | 損害保険ジャパン株式会社<br>石野美加・近藤万祐子     |
| 2 | 「逃げ地図」で企業BCP強化<br>大阪市 高潮                                  | 日本ミクニヤ株式会社<br>岸川英樹・八木敬太郎       |
| 3 | 「逃げ地図」から見直す学校の防災教育<br>串本町 津波                              | 京都大学大学院工学研究科<br>李惠智・石渡椿        |
| 4 | もっと便利な「逃げ地図」を目指して！—若者のGISチャレンジ<br>宝塚市 土砂災害 / 吉野川市 水害・土砂災害 | 神戸学院大学防災学科<br>安原愛登             |
| 5 | 「逃げ地図」のデジタル版構築への試み<br>川崎市 水害（洪水）                          | 専修大学ネットワーク情報学部<br>中山俊          |
| 6 | 「逃げ地図」と地域に惚れ込む<br>尾鷲市 地震津波                                | 三木里防災観光まちづくり実行委員会<br>黒川陽介・山田大介 |
| 7 | 「逃げ地図」で過疎地域の防災に希望を！<br>串本町・由良町 地震津波                       | 京都大学防災研究所<br>金玟淑               |
| 8 | 誰一人取り残さない避難を目指して—「逃げ地図」×福祉の実践<br>有田市 水害・土砂災害              | 有田市民 有田市社会福祉協議会<br>桑原安子・宮本朋子   |

### 2 パネルディスカッション

登壇者

建築工房匠屋

大崎元

熊野くらし工房一級建築士事務所

森岡茂夫

串本町役場 総務課

岡田真一

大分県防災アドバイザー

姫野松男

モデレーター

京都大学防災研究所

牧紀男

京都大学防災研究所 教授

閉会あいさつ ..... 牧紀男

### 3 ミントーク & 共有セッション

小さな決意を描く  
—まちを彩る私のクレド



## 第2部 交流会（有志にて場所を移動して開催、17:30~）

主催 認定NPO法人日本都市計画家協会・  
逃げ地図研究会

協力 損害保険ジャパン株式会社  
日本ミクニヤ株式会社  
京都大学防災研究所 牧紀男研究室



# 宮崎県都農町視察のご報告

# 宮崎県都農町視察のご報告

参加者：三木里地区（中村、黒川、山田）、KISUI SEKKEI（丹羽）

日付	主な内容	訪問先 / 活動場所	主要な成果
1日目 12/6 (土)	・双方の活動紹介と交流会	株式会社イツノマ (都農町)	●活動内容の把握 ・まちづくり×教育×観光 ・子供・若者参画まちづくり ・ホステルALAについて
2日目 12/7 (日)	・都農町の案内 ・株式会社イツノマにおけるスタディツアー運営の分析 ・意見交換会	都農町 株式会社イツノマ (都農町)	●都農町を知る ●活動内容の把握 ・つの未来学 ・スタディツアーについて ●三木里の課題は何か？ ・「事前復興」について ・今年度のモニターツアーについて
3日目 12/8 (月)	・株式会社イツノマの事例見学	高鍋町、宮崎市青島	●活動内容の把握 ・高鍋駅における高校生の居場所 ・青島エリアビジョンの作成

# 宮崎県都農町視察のご報告



PUBLIC LIFE DESIGN

のご紹介

HP

[イツノマ](#)

Youtube

<https://youtu.be/vNwALt2j0Ns?si=jZ6a2HuXfKmNleOg>

## 宮崎県都農町視察のご報告



双方の活動紹介・意見交換会

# 宮崎県都農町視察のご報告



(株)イツノマが運営するゲストハウス Hostel ALA

# 宮崎県都農町視察のご報告



都農神社



瀧神社



都農ワイナリー

高校生スタディツアーのまち歩きルートを経験

# 宮崎県都農町視察のご報告



都農港の近く、海拔2～3mの場所に建つ児童館

# 宮崎県都農町視察のご報告



まちづくり部メンバー（中学生の地域クラブ）の活動

# 宮崎県都農町視察のご報告



高校生マルシェ「月市」が行われる高鍋駅

## 印象に残った事MEMO【黒川】

- ・ 全ての内容において100点は取らなくてよい（プログラムにおいて）
- ・ 席次をして、全員が当事者になれる工夫
- ・ 行政との仕事のつくり方で、事業者がリスクをとる前提ではないと動かない
- ・ 主語を大きくしない（理解が難しい）
- ・ ワクワクの提供（弱者の戦略）
- ・ 誰にでも伝わる言葉を使う（スマホのタップを「とんとん」と表現したり
- ・ SNS、メディアを積極的に活用する。（ライスメディア参考）<https://rice-media.net/>
- ・ AIを活用する（プログラムの内容など）AIならパワハラ出来る、認知症予防、スマホスクール&事前復興
- ・ 行政とは、何度も協議し、課題を分析し解決しながら進める（ひたすらラリーする）
- ・ 自分たちが刷新性をもち、発信していく。（これまでは硬すぎたかも）
- ・ 事前復興を肌感でわかるレベルに落とす（身近にする）
- ・ しくみづくりはプラモデルと一緒に。ゴールに導いてく
- ・ スライドも「絵とでかい文字、一言」で簡潔にまとめる
- ・ 防災ショールームをつくる

## 印象に残った事MEMO【丹羽】

### ●とにかく「楽しんでもらう」企画づくり

・自分たちが提案した企画が実現したり、商品開発したものがスーパーに並んで売り切れたり、といった子供たちの**達成感、やる気、モチベーション**を起す企画づくり

→実現できることしかやらない

・中学生や高校生のご飯は、お腹いっぱい食べさせればOK。**印象に残った出来事や、いい思い出を持ち帰ってもらう**ことが大切、リピートにつながる

・ただ、楽しんでもらうためには、ある程度相手のことを知っておく必要がある

→事前に高校生のやりたいことを聞き出して、企画に反映する

### ●「事前復興」を住民にとってより身近なものに。言葉の翻訳が不足している

・「事前復興」「避難」「廃校活用」など、**主語が大きく**、住民にとって親しみにくい言葉が多い

→学術的な内容は理解が難しい

・子供や高齢者に伝えるには、**大きな文字と分かりやすい絵**、シンボリックにコミュニケーションをとる

・エンタメ性、コンテンツ化（川柳、紙芝居など、）

→まちの人が自分自身の言葉で言い換えて理解できる工夫

# 南海日日

発行所 南海日日新聞社  
〒519-3617  
三尾市尾鷲町野地町6番5号  
TEL 0597-22-4498  
FAX 0597-22-4491  
E-mail general@naniwa-nichi.com

10月12日 (日曜日) 伝説

尾鷲地方の天気  
12日 南東後北東の風強く曇時々雨のところにより夕方まで雷を伴う  
海上波2m前後3m  
降水確率  
午前6時~正午 50%  
満潮 9:51 19:55  
干潮 2:40 14:34 中期  
13日 北の風強後晴

## 今後の取り組み意見交換

### 紀北町社協 「みらい塾」 地域ささえ合い活動



紀北町社会福祉協議会(社協)は、本年度第2回交流会「みらい塾」が、このほど、尾鷲市三木里地区の町社会福祉協議会(町社協)と連携して、高年齢者を訪問する「みらい塾」を開催した。本年度は、町社協と連携して、高年齢者を訪問する「みらい塾」を開催した。本年度は、町社協と連携して、高年齢者を訪問する「みらい塾」を開催した。

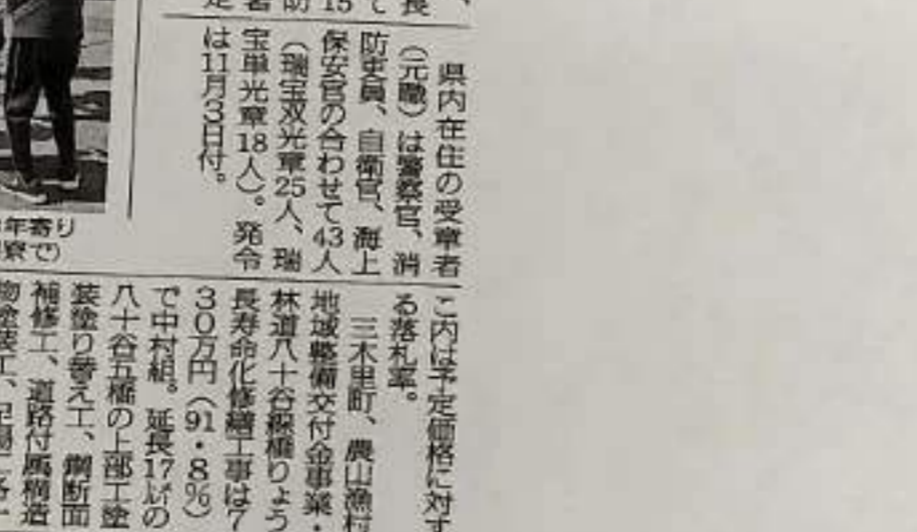
### 要支援者の津波避難

#### 福祉関係者ら対応検討



尾鷲市三木里町の旧ジャーマンが有事の際、三木里地区の要支援者らに対し、津波発生時の対応を検討している。福祉関係者らと連携し、避難場所の確保や避難手段の検討を進めている。

### ユニカール大会で親睦



ユニカール大会が、尾鷲市三木里地区のユニカール愛好会主催で開催された。参加者は、ユニカールを楽しみながら親睦を深めた。

### 相撲あれこれ

相撲の面白さは、その勝負の瞬間にある。力士の力強い動きや、観客の熱い声援が、相撲の魅力を伝える。

### 消防功労叙勲

消防功労叙勲式典が、尾鷲市で開催された。消防士たちの勇敢な活躍を称え、表彰された。

### 楽しい競技で盛り上がる

赤羽寮運動会が、尾鷲市で開催された。参加者は、様々な競技を楽しみ、盛り上がる大会となった。

### 道路改良工事

尾鷲市は、道路改良工事を実施している。地域の交通利便性を向上させるための取り組みである。

橋梁修繕と道路改良工事  
尾鷲市は、橋梁修繕と道路改良工事を実施している。地域の交通利便性を向上させるための取り組みである。

## ひもの売出し

10月18日(土)  
場所: 当工場にて  
朝9時~夕3時  
ぜひぜひお寄り下さい。  
**干岩崎商店**  
尾鷲市朝日町10-3  
TEL 22-0509 FAX 22-7668

## あなたの健康を応援します

### 看護師・看護助手募集

〈正職員・非常勤〉  
若干名  
(詳しくは面談にて)

診療案内: 内科(365日可)  
(受付) 8:30~17:00

### 長島回生病院

紀北町東長島2番地  
TEL 0597-47-1651(代表)

## 職員募集

介護スタッフ: 日勤パート  
夜勤パート(週1日~)

生活相談員: 正職員・パート  
調理員: パート  
訪問介護: パート

※詳細はお問合せにて ☆資格取得支援あり

### 総合介護センター ゆりかご

紀北町船津1163-1  
☎0597-36-1510 (担当: 水口、小倉)

## 警備員募集

場所①: 尾鷲総合病院(施設警備)  
夜間業務有り  
※日給10,000円~

場所②: 交通誘導警備員(現場による)  
短期バイト  
※日給11,000円~  
(交通費支給、未経験者歓迎・1日~OK)

お問合せ先  
**共同ビルサービス株式会社**  
☎090-6811-1107(徳本)

## 介護職員・管理者募集

◎訪問介護管理者.....1名  
◎地域密着型通所介護管理者...1名  
◎訪問介護・地域密着型通所介護  
\*正規職員...若干名 \*パート...若干名

☆詳細はハローワークにて☆  
勤務地: 尾鷲市三木里町

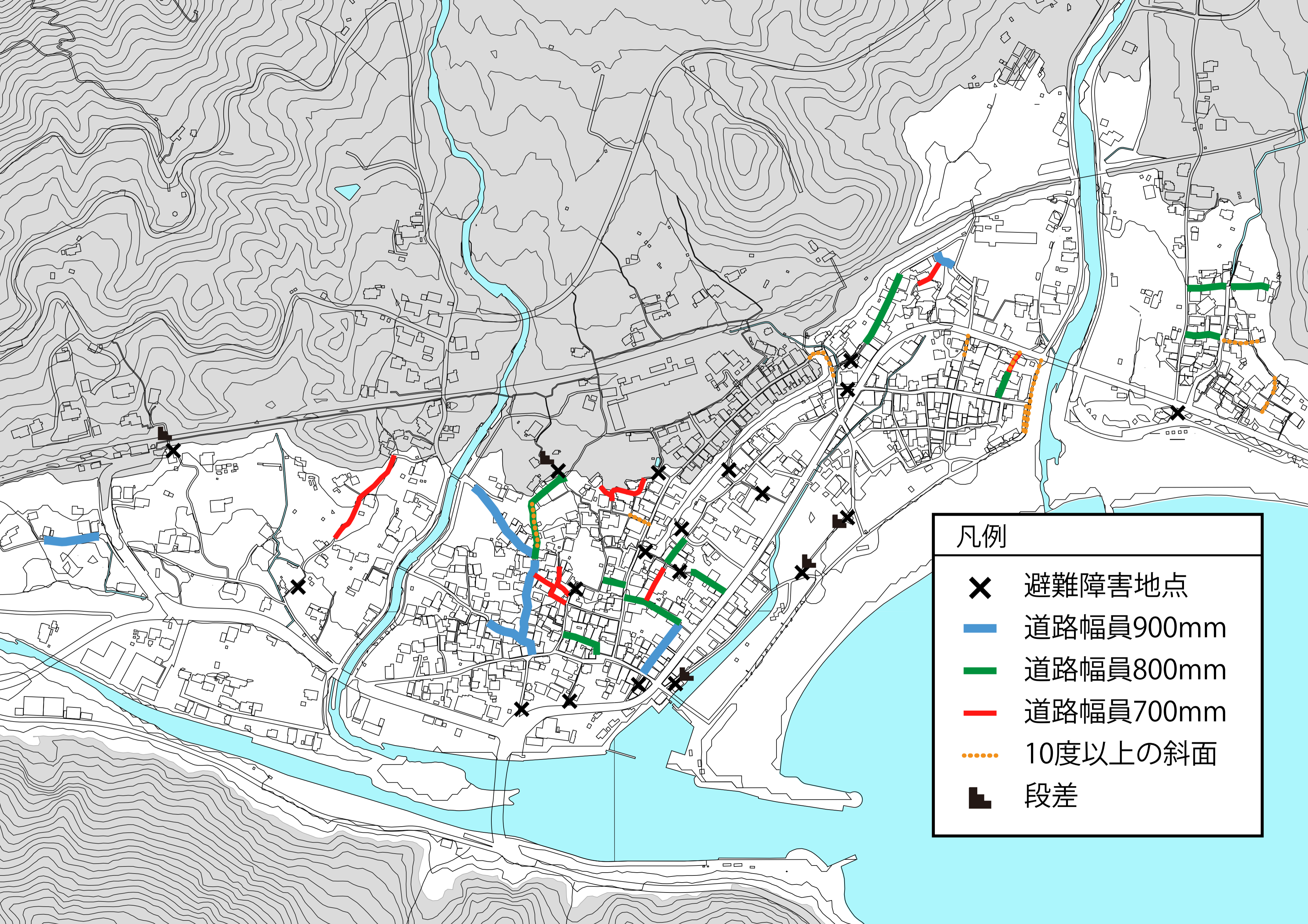
### 医療法人 はしづめクリニック

尾鷲市三木里町294-3  
TEL 0597-28-3230(担当: 久保)

## 全国に広がる「逃げ地図」ワークショップの開催

全国38都道府県104市区町村以上（北海道函館市・北斗市・釧路町、青森県八戸市、岩手県宮古市・大船渡市・陸前高田市・一関市・住田町・野田村、宮城県仙台市・気仙沼市・南三陸町・七ヶ浜町、秋田県秋田市・能代市、山形県鶴岡市、新潟県燕市・南魚沼市、栃木県宇都宮市、埼玉県秩父市・坂戸市・八潮市・さいたま市、茨城県水戸市・つくば市・筑西市、東京都港区・新宿区・葛飾区・足立区・品川区・杉並区・江戸川区・豊島区・墨田区・大田区・府中市、千葉県山武市・浦安市・館山市、神奈川県横浜市・鎌倉市・逗子市・葉山町・平塚市・藤沢市・川崎市・三浦市・横須賀市、山梨県甲府市、静岡県焼津市・下田市・南伊豆町・河津町・掛川市・牧之原市・磐田市、愛知県名古屋市・常滑市・春日井市・小牧市、三重県尾鷲市、富山県高岡市・富山市、石川県金沢市、福井県福井市・越前市・南越前町、大阪府大阪市・堺市、和歌山県和歌山市・海南市・田辺市・太地町・串本町・由良町・有田市、京都府京都市・福知山市、大阪府大阪市、兵庫県神戸市・芦屋市・宝塚市・淡路市、岡山県岡山市・津山市、広島県広島市・尾道市、島根県浜田市、山口県下関市、香川県高松市、徳島県鳴門市・吉野川市、愛媛県松山市・西予市・松前町、高知県高知市・黒潮町、福岡県北九州市、大分県大分市、熊本県熊本市・益城町、長崎県五島市、沖縄県浦添市（2025年12月18日現在）





凡例	
×	避難障害地点
— (Blue)	道路幅員900mm
— (Green)	道路幅員800mm
— (Red)	道路幅員700mm
⋯ (Orange)	10度以上の斜面
■ (Black)	段差